



第7回 CSSを使って文字を装飾してみよう

前回は、CSSを使ってHTMLを装飾するために使う、セレクトの記述方法と色の指定を覚えしました。今回は、Webページのコンテンツの主役といっても過言ではないテキストを装飾するためのCSSをマスターしましょう。文字に関する指定は書体やサイズの指定だけでなく、ときには文字列に下線を付けたりといったことも行います。ここでは、文字装飾に関するプロパティのなかでも、利用頻度が高く代表的なものの中心に紹介していきます。

(解説：こもりまさあき)

文字列の装飾には、複数のプロパティを組み合わせる

HTML+CSSで構築されるWebサイトの主役ともいえるテキストは、CSSでの装飾がなされていない場合、ブラウザに用意されたスタイルを用いてブラウザ内に描画されます。h1要素が一番大きな文字サイズで太字、以降h要素は段階的に小さくなっていきます。また、本文であるp要素の大きさは、ブラウザに設定された初期値の文字サイズが基準です。実際には、これらのブラウザに用意された初期値があることで、HTML文書にある内容はCSSがなくても読みやすく成形されて表示されると考えてよいでしょう。

しかし、Webサイトをデザイン・レイアウトして、視覚的にも情報をわかりやすく伝達するためには、ブラウザ初期値による表示では事足りない場合もあります。通常h2要素はh3要素より大きく表示されますが、文書構造やデザインによってはh2要素よりもh3要素の文字サイズを大きくして目立たせたい、といったようなケースがたくさんあります。

CSSでの書体の形や文字サイズ、文字の太さなどの変更は、それぞれに用意されたプロパティを組み合わせで表現します。文字の形、サイズ、太さ以外に、テキストの行揃えを変更したり文字列に下線を引いたりというように、文字列の装飾に関わる指示をするプロパティも用意されています。CSSを使った文字列の装飾は、単一のプロパティの指定で終わることもありますが、多くの場合、用意された複数のプロパティを組み合わせで指定すると覚えましょう。

文字装飾に関係するCSSのプロパティは、そのプロパティ名から大きく分けて2つに分類できます。1つめは書体そのものに関係する「font-」で始まるプロパティ。2つめは文字列の装飾や変形などに関係する「text-」で始まるプロパティです。

【図1】

【HTML ソース】

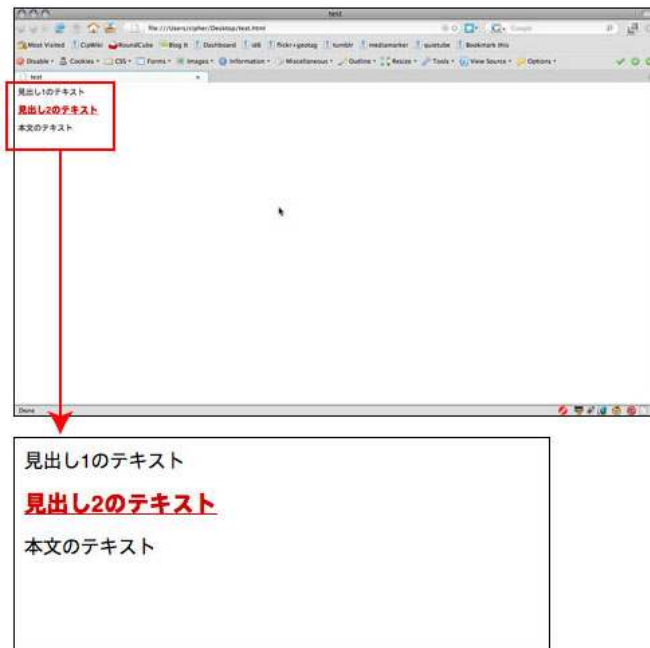
```
(中略)
<body>
<h1> 見出し 1 のテキスト </h1>
<h2> 見出し 2 のテキスト </h2>
<p> 本文のテキスト </p>
</body>
</html>
```

【CSS ソース】

```
body {
  font-family: sans-serif;
  font-size: 100%;
}

h1 {
  font-size: 100%;
  font-weight: normal;
}

h2 {
  font-size: 120%;
  text-decoration: underline;
  color: #cc0000;
}
```



文字列を装飾するには、このように複数のプロパティを組み合わせで指示することが多い。この場合、h1要素は本文と同じサイズと太さで表示され、h2要素はそれよりも1.2倍の大きさの太字で下線が付き、さらに赤い文字色で表示されている

書体そのもののスタイル指定は「font-」で始まるプロパティ

表示される書体そのもののスタイルを変更するためには、「font-」で始まるプロパティを利用します。日本語の書体を表現する際に用いられる代表的なプロパティは4つあります。「font-family」は書体の形、「font-size」は書体サイズ、「font-weight」は書体の太さ、「font-style」は書体のスタイルを指定するプロパティです。

「font-family」は、書体の名前を値として指定します。日本語環境では一般的に、Macintosh用の書体名の後にWindows用の書体を列挙し、最後に総称ファミリーとして「serif（明朝体）」または「sans-serif（ゴシック体）」の区別を必ず指定します（*1）。

「font-size」は、書体の大きさを指定します。値の指定にはいろいろなバリエーションがあり、「%」や「em」といった単位を使った「相対指定」、「px」などの単位を使った「絶対指定」などが利用可能です（*2）。

「font-weight」は書体の太さを指定しますが、現状では標準の太さが太字かのいずれかしが区別されません。「font-style」は「正体」か「斜体」かの区別をするプロパティですが、日本語ではあまり斜体を利用することはありません。このプロパティは、ブラウザの初期表示が斜体になる特定の要素を正体に戻す場合によく利用されます。

【font-で始まるプロパティ】

font-family: 値;

値には書体の名前を「,（カンマ）」区切りで列挙する。空白を含む書体は「"」で囲む必要がある。

記述例) font-family: "ヒラギノ角ゴ Pro W3", "Hiragino Kaku Gothic Pro W3", "Hiragino Kaku Gothic Pro", "Osaka", "MS Pゴシック", "MS PGothic", sans-serif;

font-size: 値;

値には、数値だけでなく「small」、「medium」なども指定可。数値の場合、単位には「%」、「em」、「px」などが用いられる。「em」は文字の高さを基準とした単位。

記述例) font-size: 150%; font-size: 0.9em; font-size: 12px; など

font-weight: 値;

値は「normal」か「bold」を指定する。実際には数値指定も可能だが、現状ブラウザでは表示されない。

記述例) font-weight: bold;

font-style: 値;

値は「normal」か「italic」、「oblique」を指定。日本語では斜体を元に戻す場合によく用いられる。

記述例) font-style: normal;

「font-」で始まるプロパティで利用頻度の高い4つのプロパティ。これらのプロパティを組み合わせで書体のスタイリングを行う

【図2】

【HTML ソース】

```
<h2>font-family でゴシック体を指定 (font-family: sans-serif;) </h2>
<p id="s1">Lorem ipsum dolor sit amet.</p>

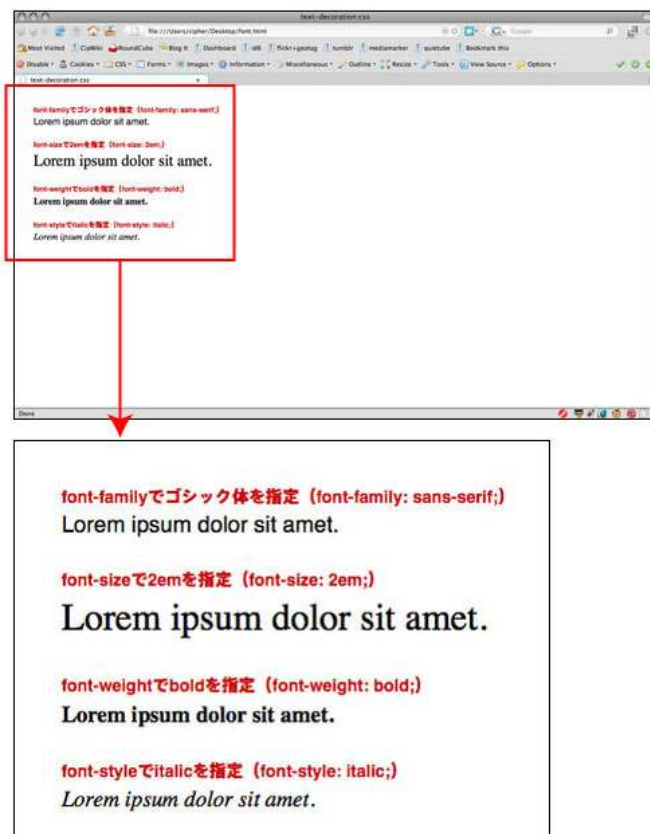
<h2>font-size で 2em を指定 (font-size: 2em;) </h2>
<p id="s2">Lorem ipsum dolor sit amet.</p>

<h2>font-weight で bold を指定 (font-weight: bold;) </h2>
<p id="s3">Lorem ipsum dolor sit amet.</p>

<h2>font-style で italic を指定 (font-style: italic;) </h2>
<p id="s4">Lorem ipsum dolor sit amet.</p>
```

【CSS ソース】

```
p#s1 {
  font-family: sans-serif;
}
p#s2 {
  font-size: 2em;
}
p#s3 {
  font-weight: bold;
}
p#s4 {
  font-style: italic;
}
```



書体そのものを装飾するために使うプロパティはサンプルにあげたものぐらいだ。ブラウザのデフォルトの表示スタイルを上書きしたりして、書体の大きさや太さなどを調整する。実際にはこれらのプロパティを複数組み合わせることになる

*1 : Microsoft社のOfficeをインストールしたMacintoshでは、Windows環境と同じような「MS ゴシック」や「MS P ゴシック」といった書体が可能ですが、しかし、それらの書体を用いてWebページを描画した場合、文字の詰めなどの表示がおかしく、お世辞にも読みやすいものになりません。また、誰もがその環境とは限らないので、Macintosh環境ではシステムの標準書体を優先させる記述を行います。

*2 : Windows版のInternet Explorer 6.x以下では「font-size」にpxを用いて書体のサイズを指定すると、ブラウザの文字の拡大縮小で文字サイズが変更されません。そこで、どうしても固定サイズであるべき場所以外は「%」のような単位を使って指定するのが、まだまだ一般的でしょう。

文字列の装飾に関する指定は「text-」で始まるプロパティ

文字列の書体そのものの形や大きさを変更するのではなく、下線を付けたりといった装飾的なスタイル指定を行うためには「text-」で始まるプロパティを利用します。この「text-」で始まるプロパティには、「text-decoration」、「text-align」、「text-indent」、「text-transform」が含まれます。

「text-decoration」は、名前の通り文字列自体の装飾を行うプロパティで、「下線」や「打ち消し線」といった装飾を付与することができます。「text-align」は、「左揃え」や「中央揃え」のような文字列の行揃えを指定するプロパティです。「text-indent」はテキストのインデントを調整するプロパティ、「text-transform」は欧文の文字列を見た目のうえで小文字にしたり大文字にしたりといった指示をするプロパティになります。

【text-で始まるプロパティ】

text-decoration: 値;

値には、「none」、「underline」、「overline」、「line-through」などを指定する。

記述例) text-decoration: underline; text-decoration: none; など

text-align: 値;

値に指定できるのは、「left」、「center」、「right」、「justify」のいずれか。

記述例) text-align: center; text-align: justify; など

text-indent: 値;

値は数値指定。単位は「em」や「px」などを指定できる。

記述例) text-indent: 1em; text-indent: 20px; など

text-transform: 値;

値は「lowercase」か「uppercase」、「capitalize」を指定。日本語では指定しても表示は変わらない。アルファベットの文字列のみで「すべて小文字」、「すべて大文字」、「単語の先頭だけ大文字」に変更可能。

記述例) text-transform: uppercase;

文字列の装飾には「text-」で始まるプロパティを組み合わせる。一般的に利用頻度が高いのは、「text-decoration」、「text-align」の2つのプロパティ。欧文を含まない限り「text-transform」を使うことはあまりない

【図3】

【HTML ソース】

```
<h2>text-decoration で下線を指定 (text-decoration: underline;) </h2>
<p id="s1">Lorem ipsum dolor sit amet.</p>

<h2>text-decoration で打ち消し線を指定 (text-decoration: line-through;) </h2>
<p id="s2">Lorem ipsum dolor sit amet.</p>

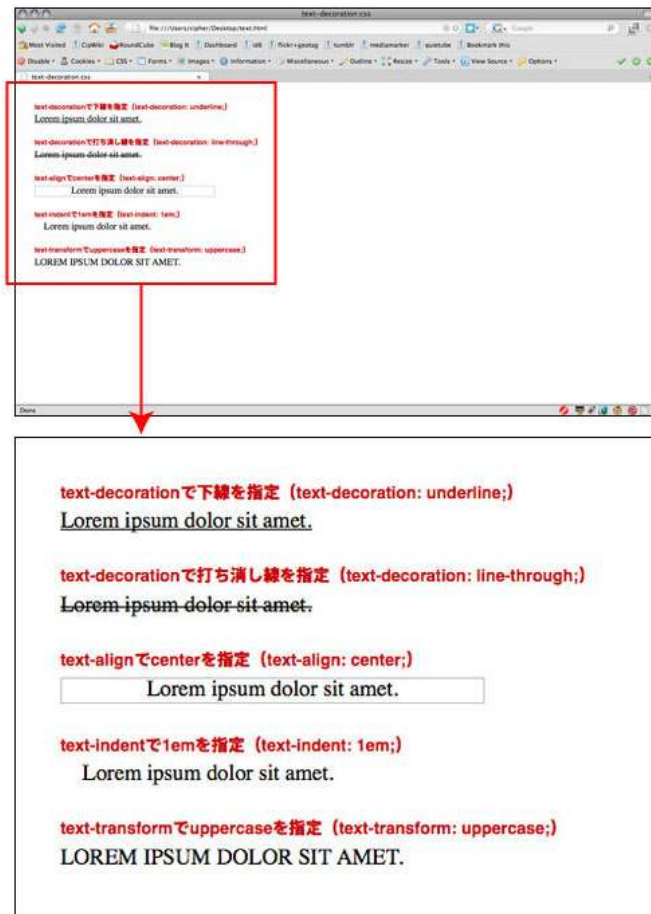
<h2>text-align で center を指定 (text-align: center;) </h2>
<p id="s3">Lorem ipsum dolor sit amet.</p>

<h2>text-indent で 1em を指定 (text-indent: 1em;) </h2>
<p id="s4">Lorem ipsum dolor sit amet.</p>

<h2>text-transform で uppercase を指定 (text-transform: uppercase;) </h2>
<p id="s5">Lorem ipsum dolor sit amet.</p>
```

【CSS ソース】

```
p#s1 {
  text-decoration: underline;
}
p#s2 {
  text-decoration: line-through;
}
p#s3 {
  width: 320px;
  border: 1px solid #c0c0c0;
  text-align: center;
}
p#s4 {
  text-indent: 1em;
}
p#s5 {
  text-transform: uppercase;
}
```



テキスト（文字列）の装飾は「text-」で始まるプロパティを使用する。「font-」で始まるプロパティ同様、ブラウザに用意された要素の標準の装飾を取り除いたりして装飾してみよう。これも複数のスタイル指定を組み合わせることが多い

ここまで説明したように、文字装飾に関係するプロパティは大きく2つに分類できます。要素内に含まれる文字列はここで紹介したプロパティを単一、もしくは複数組み合わせで装飾指示を行います。今回紹介したこれらのプロパティに加え、前回紹介した「color」や「background-color」を組み合わせるのが、文字装飾の基本的な手法です。いろいろな組み合わせでどのような表現になるか、試してみましょう。

Point

- ・書体そのものの大きさや形を変えるのは「font-」で始まるプロパティ
- ・文字列の装飾指示は「text-」で始まるプロパティ
- ・文字装飾は「font-」と「text-」で始まるプロパティの組み合わせ次第

次回は、装飾編の仕上げとして罫線などのプロパティを紹介する予定です。
(次回につづく)